

○民主党再生に向けて、チャレンジ

民主党の再生に、全力で取り組んでいます。私達がここまで大敗をした原因を徹底的に検証し、反省をしたうえで、具体的な党改革の方向性の第一弾を打ち出し、すぐできることから実行していくことです。24日には、党大会を開いて、皆で、その中身を確認して心合わせをします。

ここ一月余りは、私も日本中を駆け巡って様々な皆さんからの声を聞かせていただいています。特に、落選をした議員の一人一人の言葉には、胸を締め付けられる思いをしました。目標にしてきた私たちが目指すべき社会と課題については、民主党は間違っただけではなかった。しかし、党が分裂騒ぎを起こしたり、マニフェストは達成された分について国民の理解が充分に得られないまま「うそつき」のレッテルが貼られてしまったり、政権運営が稚拙であったりと、チームとして全くまとまっていなかったことなど、手厳しい批判をいただきます。

生活者、納税者、消費者や働く者の立場にたって、皆が支えあって生きる「共生社会」を目指すこと。改革政党としての気概を持って、開明的保守から民主中道、リベラル勢力を結集していくことなど、これまでの基本的な姿勢については、「党の綱領」によって皆で再確認をします。一方で、党のマネジメント、政権の運営、議員の意識改革など、原点に戻った見直しが必要な党再生に向けての抜本改革については、党の「改革創成本部」の第一次提言として公表されます。すぐに出来ることから改めながら、日本の政権の選択肢として、再び皆さんの信頼を勝ち得るための挑戦をしていきます。

○真の民主化を求めてミャンマーへ

ミャンマーに行きました。目的は、私が大臣時代に担当した、ミャンマーの少数民族の一つ、カレン族の難民の受け入れ事業（第三国定住事業）の継続が必要かどうかの判断、さらに、ミャンマーの民主化に欠かせない軍事政権と少数民族との和解を進めるために、日本として何が出来るかを模索することでした。

経済制裁が解かれたミャンマーは、世界各国からひっきりなしに訪問団が押し寄せて、投資開発ブームに沸いています。新しい憲法制定と、それに基づいた選挙による国会の誕生で、民主化が前進しているとみなされ、世界各国の経済制裁が解除され始めています。ところが、多民族国家のミャンマーは、安定の基本である少数民族との和解が、最重要課題です。しかし、ここに来て、それが思うようには進んでいません。ビルマ族に対して、少数民族は全体の40%を占めます。カレン、シャン、カチン、モンなどの少数民族が、タイや中国などと国境を接する

山岳地帯に生活しています。20年以上に及ぶ軍事政権の弾圧で、タイやマレーシアに逃げ込んだ人々の難民キャンプから、アメリカやオーストラリアなどと一緒に日本も難民を受け入れています。私が大臣時代に取り組んだプロジェクトの一つが、このミャンマー少数民族難民の第三国定住受け入れです。鈴鹿の椿でその子供たちが元気に育っています。

ところが、軍事政権と少数民族の間が再びこじれ始めています。カチン族に対して空爆が再開され、他の民族との和平も崩れる可能性が出てきました。今回の訪問では、最初に、山の反対側にあたるタイのチェンマイで、山から出てきた少数民族の代表達に会い、彼らの主張を聞いた後、宮殿のような国会議事堂や政府の各省が並ぶ、新首都のネピドーに出向き、中央政府の少数民族担当大臣、経済開発大臣、教育副大臣他、国軍総司令官にも会って、即時停戦をうたえました。同時に、現状を打開できずに困り果てている国会議員たちにも会いました。

民族間の歴史的な葛藤や、地下資源などをめぐる利権の争奪など、複雑な中身が折り重なっていて、一筋縄ではいかないことも分かりました。一方で、人々が長い憎しみと戦闘に疲れ果て、争いの中に入ってくれる公正な仲介者が欲しいと真剣に和平を模索している状況があります。そんな中で、日本が果たすことのできる役割を具体的に提起して、帰国後、外務省や関係部局に「日本外交が積極的に貢献すべき分野だから頑張れ」と、発破をかけています。

今、日本には、一万人を超えるミャンマー人が生活しています。その多くが25年ほど前の軍事政権の弾圧で難民化した人たちです。少数民族出身の人々と、ビルマ族出身の人々が日本では和解が進み、力を合わせて、母国の真の民主化を進めようという運動に結集しています。日本の民間投資がミャンマーに向かっている中で、ミャンマーの安定は、他人事ではなく、日本やアジア全体の安定に大きく関わってくる大事な課題なのです。

○ご連絡

<後援会の集い>3月2日(土)コンフェット鈴鹿平安閣、3月10日(日)亀山あんぜん文化村で後援会の集いを開催します。午後6時からです。皆様奮ってご参加ください。

<党员・サポーター募集中>

2013年度の党员・サポーターを募集しています。民主党の再生にむけて、一人でも多くの方のお力添えをお願いいたします。詳細は鈴鹿事務所(059-381-3513)までお問い合わせ下さい。

中川 正春